



“仕事に行き始めた”“学校に行き始めた”が多く、ついで“友人に助けてもらった”“家族に助けてもらった”“自分の気持ちで”が多かった。その他でも家族や学校の先生に励まされてという記述や将来のことを考えてひきこもりを終えたという記述が見られた。

#### 4. 考察

集計に際して、アンケート部分だけが分離されたために、回答者の基本属性とひきこもりとの関係は不明である。

回答者の全体を見ると、高校生については在籍中の者が多く、20代については就労中の者がほぼ8割であることから、集団として、特に不適應者が多いとは思われない。年齢分布も、年代ごとにほぼ均一であった。性別で女性がやや多いが、このことがひきこもり者の有病率にどのような影響を与えるのかは不明である。

現在のひきこもりが1.27%、過去のひきこもりが2.50%であることは、たとえば精神分裂病（統合失調症）の生涯有病率が約1%、時点有病率が約0.5%であることを考えると、やや多い数字であるが、対象が若年者に限られているため、正確な比較は困難である。

また回答者と、非回答者の間の属性の比較が出来ないため、どちらの群に、よりひ

きこもりが多いのかは判断できない。ごく一般的に、ひきこもりの心性からして、この種の調査に非協力的であると考えれば、実数はさらに大きくなる可能性がある。ただし、いずれにしても今後の詳しい調査が必要である。

また、1%前後の有病率を持つ対象の調査としては本調査の対象者数（回答者数）はあまりに少なく、この数字自体、そのままでは信頼性を持つとは考えられない。あくまでも、限られた対象における、予備的な結果であると解釈すべきであろう。

「社会的ひきこもり」事例における本人と家族の状況に関する調査研究

主任研究者 伊藤順一郎

研究協力者 吉田光爾 小林清香 野口博文 土屋徹 伊沢玲子  
国立精神・神経センター精神保健研究所 社会復帰相談部

研究要旨

「社会的ひきこもり」を主訴として相談機関に来談し、相談継続中の事例の家族を対象にアンケート調査を実施した。調査の第1の目的は、「社会的ひきこもり」の本人・家族の状況を把握することであった。また引き続き行われる援助の中での、相談者の負担感や「社会的ひきこもり」状況の変化について、前向きに調査していくためのベースラインとすることを目的とした。

50名の社会的ひきこもり事例の家族から回答を得た。「社会的ひきこもり」本人の示す行動上の問題では、昼夜逆転・強迫行為などが多いことが示された。家族関係の面では、家族への支配的な言動や家族への拒否的な態度も少なくなかった。また、「社会的ひきこもり」の家族は、家族機能の健康度が低下しており、精神的健康度の低下が見られた。特に、本人の年齢が高い場合、家族との関係において支配的態度が見られる場合、本人が家族に対して拒否的である場合には家族機能の低下や家族の精神的健康度の低下が顕著になると考えられた。

こうしたことから、社会的ひきこもりの家族の負担を軽減するための援助の必要性が確認された。また、本人の示す問題行動や、家族が本人との関係をどのように感じているのかという側面にも注目しつつ、家族を援助していくことの必要性が示された。

A. 研究目的

相談機関（東京都多摩地区・横浜市の全14施設）に、「社会的ひきこもり（ガイドライン定義）」を主訴として来談、相談継続中の事例を対象とし、家族にアンケート調査を実施した。

調査の目的は、「社会的ひきこもり」の本人および家族の状況を把握するとともに、支援の提供による相談者の負担軽減や、「社会的ひきこもり」状況の改善を追跡調査していく上でのベースラインとなる情報を得ることであった。

B. 研究方法

（1）対象

ガイドラインの定義に基づき作成された基準（表1）に沿い、相談担当者によって『社会的ひきこもり』を主訴に来談している事例と判断されたもの。当該機関での相談期間は問わなかった。

（2）倫理面への配慮

相談担当者から研究の概要・プライバシーの保護などに関するインフォームドコンセントがなされ、文書による調査協力の同意を得ら

れたものを対象者とした。

表1 「社会的ひきこもり」の定義（抜粋）

自宅を中心とした生活  
社会参加活動をしていない、できない  
問題発現時期が10代～20代  
精神分裂病、中等度以上の精神発達遅滞は除外

（3）調査測度

①FAD (Family Assessment Device)

「問題解決」「意志疎通」「役割」「情緒的反応」「情緒的関与」「行動統制」の6つの機能次元から、家族の健康度を評価する。

②GHQ-12 (全般的な精神健康度)

③対処可能感尺度

病気や障害などなんらかの困難を抱えた人の家族を対象として作成され、問題解決に向けての目標設定と、それを実現するため対処期待を測る。「具体化された目標への対処可能感」と「大きな目標に対する対処困難感」の2因子からなる。

④家族困難度

障害者を支援する家族を対象とした尺度で、本人との共同生活に起因する家族の生活行動障害の程度をはかる。今回は対象の

特性を考慮し、「服薬を継続させる困難さ」の項目を削除し、「病状・再発」という表現を「状態」に改訂して用いた。

#### ⑤家族問診表

家族から見た本人・家族自身の生活を把握する。本人の生活状況に関しては睡眠・食事・会話・活動範囲・他者との交流・家族とのかかわりについて、また、家族の生活状況に関しては、社会的活動などへの影響について尋ねた。

#### ⑥基礎情報

家族構成や基本属性、現在および過去の本人の状態、ひきこもりの程度などについて、相談担当者が記入した。

#### (4) 調査実施時期

2001年9月から2002年1月。

### C. 研究結果

#### (1) 社会的ひきこもりの本人の状況

**本人の基礎属性** 対象となったのは50ケースであった。本人の年齢は15歳～34歳(平均21.1歳)、男女比は37:11であった。

**きょうだい構成** 長子が29.2%、中間子が10.5%、末子が49.8%、ひとりっ子が10.5%であった。

**相談経路** 今回の相談機関に直接来談した事例は8ケース(17.0%)と少なく、電話相談から相談を開始した事例が57.4%と過半数を超えた。

**問題発現年齢・継続年数** 発現年齢の平均は18.2歳、継続年数の平均は3.4年であった。なお、継続年数の最大年数は18年であった。

**診断が確認されている事例** 対象者のうち担当者が何らかの医学的診断を把握している事例は6ケースであった。それらは主にうつ病・不安神経症・強迫神経症・PDDの疑いなどであった。

**問題行動** 現在本人が抱えている問題行動として回答が多かったものは「昼夜逆転(42%)」「家族に対する支配的な言動(31%)」「強迫行為(20%)」などであった。器物破損・家族に対する暴力は各10%であった。なお、非行・触法行為のある事例は現在皆無であり、過去における経験がある事例も1名のみであった。このことから危機的な状

況となるような問題行動が少ないことが、ひきこもりが遷延化する要因となっている可能性も考えられた。

**担当者から見たひきこもり程度** 担当者から見た本人のひきこもりの程度は「社会的活動以外は外出自由(26%)」「条件付で外出可能(55%)」「外出できないが家庭内では自由(15%)」「自室で閉じこもっている(4%)」であった。なお、現在本人に強迫行為のある場合、ひきこもりの程度が重くなる傾向が見られた。ひきこもりの程度は性別・問題の継続年数・本人の年齢などとは関連が見られなかった。

**家族への拒否** 家族に対する本人の拒否の有無を家族に尋ねた場合の回答は、「家族全員を拒否(12%)」「家族の一部を拒否(38%)」「拒否はない(50%)」であり、何らかの形で家族を拒否している事例が半数にのぼった。なお、家族の一部が拒否される場合は、父親が拒否対象となっている事例が多かった。

#### (2) 「社会的ひきこもり」家族の状況

家族困難度の各項目において「大いにある」「少しある」との回答が多かった項目は「将来への不安・あせり(72%)」「経済的負担(54%)」「世話による心身の疲れ(52%)」であった。

FADについて、作成時の尺度得点(佐伯ら、1997)と比較したところ、7つの下位因子すべてで有意な差が認められ、対象家族の認知する家族機能の健康度が低いことが示された。

GHQ-12について、尺度作成時の数値(森ら、2001)と比し、対象家族の得点が有意に高く、精神的健康度が低下していることが示された。

#### (3) 本人の社会的ひきこもり状況と家族の状況

社会的ひきこもり本人の状況と家族からのアンケートへの回答結果について検討を行った。

**本人の基本属性との関連** 本人の年齢と対処可能感尺度の2つの因子、家族から見た本人との関係に比較的強い相関が認められた。つまり、本人の年齢が高くなるほど、家族は本人との関係がよくないと感じる傾向が

強く、具体化された目標への対処可能感が低まり、対処困難感が増す傾向があった。本人の性別(女性 11 名:男性 37 名)、ひきこもり問題の継続年数との関連は見られなかった。

**担当者から見たひきこもり程度との関連**  
担当者から見た本人のひきこもりの程度や家族拒否の程度と、家族の心理社会的な側面には関連が見られなかった。

**家族との関係性との関連** 家族が「本人は命令的・支配的である」と感じている場合(33 名)はそうでない場合(15 名)と比し、FAD の情緒的関与、GHQ、家族困難度の得点が有意に高かった。つまり、本人が家族に対して支配的な関係にある場合、家族の精神的健康度が低下し、困難度が高まることが示された。

また、家族に対する本人の拒否の有無(拒否有り 21 名:拒否無し 21 名)で比較したところ、GHQ 及び FAD の問題解決、意志疎通、情緒的反応、情緒的関与、全般機能で有意な差が見られ、いずれにおいても家族拒否ありの場合のほうが得点が高かった。つまり家族が、「本人が家族に対し拒否的だ」と感じている状況では、家族機能が低下しており、家族の精神的健康度が阻害されていることが示された。

#### D. 考察

「社会的ひきこもり」を主訴とする家族へのアンケート調査を実施し、事例状況についてまとめた。

対象となったひきこもり本人の性別は男性が圧倒的に多く、他の調査など同一の結果であった。相談経路は電話相談である場合が多く、社会的ひきこもり事例が相談機関にアクセスし、相談を継続していく機会となる電話相談への対応が重要であることが示唆された。

また、医学的診断が確認されている事例は少ないが、強迫的な行為が出現している事例は全体の2割程度と多かった。強迫行為の出現とひきこもりの程度には関連が見られ、強迫行為が存在する場合はそれに対応

した援助の必要性が示唆された。他の問題行動としては、家族との関係を左右する支配的な言動のある事例も少なくなかった。家族関係という側面では、何らかの家族拒否が見られる事例も半数を越えた。他方、触法行為や非行のある事例は少なかった。

社会的ひきこもりの家族は、家族機能の健康度が低下しており、精神的健康度の低下が見られた。特に本人の年齢が高い場合、家族との関係において支配的態度が見られる場合、本人が家族に対して拒否的である場合には家族機能の低下や家族の精神的健康度の低下が顕著になると考えられた。

こうしたことから、社会的ひきこもりの家族の負担を軽減するための援助の必要性が改めて確認された。また、本人の示す問題行動や、家族が本人との関係をどのように感じているのかという側面にも注目しつつ、家族を援助していくことの必要性が示された。

#### E. 結論

研究機関へ来所している社会的ひきこもり事例の本人と家族の状況を把握した。その結果、家族への援助の必要性が確認されると同時に、本人の示す問題行動や、家族が抱く本人との関係への意識に注目しながら家族を援助する必要も示された。

#### F. 健康危険情報

特になし。

#### G. 研究発表

1. 論文発表  
特になし。
2. 学会発表  
特になし。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
特になし。
2. 実用新案登録  
特になし。
3. その他  
特になし。

# Ⅲ 調 査 票



# インタビュー・基礎情報票

ID \_\_\_\_\_

新規 ・ 継続

担当者 \_\_\_\_\_

本人氏名		学業・職業		性別	生年月日		
				男 ・ 女	19 . .		
連絡先							
〒						TEL	
家族構成	氏名	来談者に○	続柄	年齢	同居/別居	職業・学校	備考

## 相談状況

記入日 . . . . .

相談開始日	. . . . .	
相談経路	本人 ・ 母親 ・ 父親 ・ 親戚 ・ 知人 ・ その他 ( )	
	直接来談 電話相談→来談 諸機関 (学校・警察・病院・児相・その他 ) からの紹介	
現在の状況	ひきこもり状態	1 自宅を中心の生活 活動範囲 (自室内 ・ 家庭内 ・ 外出も可 ) 2 就学・就労といった社会参加活動ができない・していない 3 平日週3日以上以上の外出ができない 4 以上の状態が3ヶ月～6ヶ月続いている 5 現在は改善や変化がみられるが、過去1年以内に上記の状態に当てはまったもの 除外 : 分裂病・中等度以上の精神発達遅滞
	問題行為	昼夜逆転 ・ 自傷行為 ・ 家人への暴力 ・ 物の破損 強迫行為 ( ) ・ 非行 ( ) 触法行為 ( ) その他 ( )
	ひきこもり分類 ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )	家族拒否分類 ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )
診断の有無	無 ・ 有⇒ ( うつ病 ・ 強迫神経症 ・ 不安神経症 ・ パニック障害 ・ その他 )	
資源利用	病院/クリニック 保健所/福祉センター フリースペース その他 ( )	

これまでの経過	不登校経験 : あり ・ なし	就労経験 : あり ・ なし	
	ひきこもり定義にあてはまるようになった時期 年 月 日		
	問題行為の経過	ひきこもり	昼夜逆転 ・ 自傷行為 ・ 家人への暴力 ・ 物の破損 強迫行為 ( ) ・ 非行 ( ) 触法行為 ( ) その他 ( )
	ひきこもり分類 ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )	家族拒否分類 ( 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 )	
	その他特記事項		

### ひきこもり分類

- 1 社会的活動以外は外出自由
- 2 夜間・近所などの条件付で外出できる
- 3 外出できないが、家庭内では自由
- 4 自宅内でも閉じこもっている

### 家族拒否分類

- 1 家族を拒否することはない
- 2 特定の家族を拒否
- 3 全ての家族を拒否

終了時状況

記入日

一年後の状況	ひきこもり状態	1 自宅を中心の生活 活動範囲 (自室内・家庭内・外出も可) 2 就学・就労といった社会参加活動ができない・していない 3 平日週3日以上の外出不可能 4 以上の状態が3ヶ月～6ヶ月続いている 5 現在は改善や変化がみられるが、過去1年以内に上記の状態に当てはまったもの 除外 : 分裂病・中等度以上の精神発達遅滞
	問題行為	昼夜逆転・自傷行為・家人への暴力・物の破損 強迫行為( )・非行( ) 触法行為( ) その他( )
		ひきこもり分類 ( 1・2・3・4 ) 家族拒否分類 ( 1・2・3・4 )
診断の有無	無・有⇒( うつ病・強迫神経症・不安神経症・パニック障害・その他 )	
資源利用	病院/クリニック 保健所/福祉センター フリースペース その他( )	

その他 特記事項

ひきこもり分類

- 1 社会的活動以外は外出自由
- 2 夜間・近所などの条件付で外出できる
- 3 外出できないが、家庭内では自由
- 4 自宅内でも閉じこもっている

家族拒否分類

- 1 家族を拒否することはない
- 2 特定の家族を拒否
- 3 全ての家族を拒否

②

支援提供状況

ID

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	備考
記入予定日	対象者	プログラム	継続状況				
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			
H . .	本人・母・父・( )		継続(月__回)・終了(いつ__回)・全__回	1回のみ			

プログラム分類  
 A1 本人個別相談  
 A2 家族個別相談  
 A3 本人・家族同席相談  
 B1 家族心理教育グループ  
 C 家庭訪問  
 D1 本人心理教育/SSTグループ:問題解決や対処獲得などの目的を持った集まり  
 D2 フリースペース・デイケア・溜まり場・居場所として自由に参加し、他者との交流が持てる場  
 \*上記にあてはまらないものは、具体的に記入



記入日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日      お名前： \_\_\_\_\_ 続柄（ \_\_\_\_\_ ）

【問1】 ご家族として、いろいろなご苦労がおりかと思ひます。最近3ヶ月を通して考へた場合、次のようなご苦労はどの程度ありますか。当てはまるところに○印をつけて下さい。

	ない	少し ある	大いに ある
1    ご本人にかかる経済的負担。			
2    ご本人の世話で仕事に出られない。			
3    ご本人の世話で家事に手がまわらない。			
4    家庭内で口論が増えくつろげず一家だんらんの機会が少なくなった。			
5    ご本人をおいて留守ができない、自由に外出ができない。			
6    近所に肩身の狭い思ひで近所付き合いがうまくいかない。			
7    親戚との隔たりができ、親戚付き合いがうまくいかない。			
8    自分だけの時間が持てなくなった。			
9    ご本人の世話で心身ともに疲れる。			
10   他の家族の結婚問題などで気苦労が多い。			
11   家族の将来設計が立てられない不安や焦りがある。			
12   家族に迷惑をかけたり暴力をふるったりすること。			
13   家族以外の人に迷惑をかけたり暴力をふるったりすること。			
14   状態の急変や、自分を傷つけることや自殺などの心配。			

【問2】 ご本人と関わられるなかで、ご本人の問題に対するあなたの関わり方や感じ方について、この1ヶ月で、最も当てはまるところに○印をつけて下さい。

	そう感じる	どちらかと言 えれば感じる	どちらかと言 えれば感じない	そう感じない
1    本人を変えることはむずかしいと感じる。				
2    問題が起きる前の、元のような状態にもどってほしいと感じる。				
3    問題を取り去ることはむずかしいと感じる。				
4    よくなったり悪くなったりしながら、全体としてはよい方向へ向かっていると感じる。				
5    小さなことで本人が変わったなと気づくことができる。				
6    小さなことで本人の良い点に気づくことができる。				
7    こちらの関わりを変えることで、本人のよい面をひきだせると思ふ。				

- 8 手や口をださなければよいのについ出してしまう、考えなくてよいことまで心配してしまうといったようによい方法がわかっていながらうまく実行できない。
- 9 時間をかけて努力すれば、よい方向へ変化がひきだせると思う。
- 10 問題が頭を離れない、眠れないなど、気分転換ができない。
- 11 本人の問題が特殊なので、どう関わればよいかわからない。
- 12 本人の問題には、まわりの人たちが話し合ったり、工夫したりできる部分も多いと思う。
- 13 本人に起きたことは、多かれ少なかれ、誰にでも起こりうることだと感じる。

そう感じる	どちらかと言えば感じる	どちらかと言えば感じない	そう感じない

【問3】 この数週間の健康状態で、最もあてはまる数字1つに○印をつけて下さい。

- 1 何かをするとき、いつもより集中して  
1) できた                      2) いつもと変わらなかった                      3) できなかった                      4) まったくできなかった
- 2 心配ごとがあつて、よく眠れないようなことは  
1) まったくなかった                      2) あまりなかった                      3) あつた                      4) たびたびあつた
- 3 いつもより自分のしていることに生きがいを感じる事が  
1) あつた                      2) いつもと変わらなかった                      3) なかった                      4) まったくなかった
- 4 いつもより容易に物ごとを決めることが  
1) できた                      2) いつもと変わらなかった                      3) できなかった                      4) まったくできなかった
- 5 いつもストレスを感じたことが  
1) まったくなかった                      2) あまりなかった                      3) あつた                      4) たびたびあつた
- 6 問題を解決できなくて困つたことが  
1) まったくなかった                      2) あまりなかった                      3) あつた                      4) たびたびあつた
- 7 いつもより、日常生活を楽しく送ることが  
1) できた                      2) いつもと変わらなかった                      3) できなかった                      4) まったくできなかった
- 8 いつもより問題があつたときに積極的に解決しようとする事が  
1) できた                      2) いつもと変わらなかった                      3) できなかった                      4) まったくできなかった
- 9 いつもより、気が重くてゆううつになることは  
1) まったくなかった                      2) あまりなかった                      3) あつた                      4) たびたびあつた
- 10 自信を失つたことは  
1) まったくなかった                      2) あまりなかった                      3) あつた                      4) たびたびあつた
- 11 自分は役に立たない人間だと考えたことは  
1) まったくなかった                      2) あまりなかった                      3) あつた                      4) たびたびあつた
- 12 一般的にみて、幸せといつもより感じたことは  
1) たびたびあつた                      2) いつもと変わらなかった                      3) なかった                      4) まったくなかった







④

ID \_\_\_\_\_

調査時期 (いずれかに○)  
開始時/2ヶ月/4ヶ月/6ヶ月  
8ヶ月/10ヶ月/終了時

ここ2週間の日常生活について、ご記入ください。

わかる範囲で結構です。わからない項目は、空欄にして下さい

1. まず、本人がどのように生活されているかについてうかがいます。

1) 睡眠について

- ① 昼夜逆転は (あり ・ なし)
- ② 就寝時間は日によって (変動する ・ あまり変わらない ・ いつも同じ)
- ③ 睡眠時間はだいたい \_\_\_\_\_ 時間くらい

2) 食事について

- ① 食事は一日 \_\_\_\_\_ 回くらい
- ② 食事はどこで、誰ととることが多いですか  
(自室 ・ 居間や台所 ・ 外食 ・ その他 \_\_\_\_\_)  
⇒ 誰と (父 ・ 母 ・ 兄弟 ・ 一人で)
- ③ どのようなものを食べますか  
(家族の調理したもの ・ 自分の調理したもの ・ 家族の買ってきたもの  
自分の買ってきたもの ・ 外食 ・ その他 \_\_\_\_\_)

3) 活動範囲について

- ① 家庭外に出かけていくことはありましたか？  
(1日1回以上 ・ 週に2-3回 ・ 週1回未満 ・ 全くない)  
・ それはどのような機会での外出ですか (あてはまるもの全部)  
(買い物 ・ 食事 ・ 友人に会う ・ 散歩 ・ その他 \_\_\_\_\_)  
・ 誰と出かけていますか (あてはまるもの全部)  
(家族と ・ 友人と ・ 一人で ・ その他 \_\_\_\_\_)  
・ 外出しやすい時間帯・曜日などはありますか  
(夕方～夜間 ・ 週末 ・ 特定の時間帯はない)
- ② 家庭内ではどこで過ごしますか  
(自室にこもりきり ・ 時おり家族と一緒にの空間で過ごす  
家庭内では自由に過ごす ・ 家族から離れられない)
- ③ 家族と一緒に過ごす時間 (食事・会話など) はどのくらいありますか？  
(1日1回以上 ・ 週に2-3回 ・ 週1回未満 ・ 全くない)
- ④ 家ではどのようなことをして過ごしていますか (あてはまるもの全部)  
(本や雑誌、新聞 ・ テレビやビデオ ・ 音楽鑑賞 ・ インターネット  
その他 \_\_\_\_\_)

4) 家族とのかかわりについて

- ① 本人の会話の仕方はどのようなですか  
(自分から ・ やや受け身 ・ 受け身 ・ 全くない)
- ② 家族を拒否するようなことはありますか  
(拒否することはない ・ 特定の家族 \_\_\_\_\_ を拒否 ・  
家族全員を拒否 (避ける) )
- ③ 印象として、本人とあなたとの関係はいかがですか？  
(よい ・ まあまあ ・ あまりよくない ・ よくない)

わからない項目については、空欄にしてください

- 5) 家族以外の他者とのかかわりについて
- ① 家族以外の他者との交流の頻度は？  
(1日1回以上 ・ 週に2-3回 ・ 週1回未満 ・ 全くない)
  - ② どのような人と交流がありますか？(あてはまるもの全部)  
(学校の友人 ・ 学校以外の友人/知人 ・ 学校の先生 ・  
病院や相談機関の援助者 ・ その他\_\_\_\_\_ ・ 全くない)
  - ③ その際の本人のコミュニケーションの仕方はどのようなですか？  
(自分から ・ やや受け身 ・ 受け身 ・ 全くない)
  - ④ どのようなかたちでの交流ですか？(あてはまるもの全部)  
(外で会う ・ 相手が訪ねてくる ・ 電話 ・ 手紙  
・ インターネットやメール ・ その他\_\_\_\_\_)
- 6) ご本人の活動性について
- ① 周囲の出来事や趣味・何らかの活動について関心・興味を持つことはありますか？  
(非常に関心がある ・ やや関心がある ・ あまり関心ない ・ 全くない)
  - ② どんなことへの興味ですか？  
就労 ・ 就学 ・ アルバイト ・ ボランティア活動 ・ 家事や家業の手伝い  
その他  
\_\_\_\_\_
- 7) その他に次のようなことはありますか
- ① 家族への暴力 (なし ・ あり：週\_\_\_\_\_回くらい)
  - ② ものにあたる・壊す (なし ・ あり：週\_\_\_\_\_回くらい)
  - ③ 家族に対して命令したり、自分のいうことに従わせようとする  
(なし ・ あり：週\_\_\_\_\_回くらい)

## 2. 次に、ここ2週間の家族自身の生活や気持ちについて尋ねます。

- 1) 家族の生活が、本人の影響を受けることはありましたか
  - ① 生活リズム(睡眠や食事時間)は本人によって(影響されて変動する・影響はない)
  - ② 社会的役割(会社へ行く時間など)は本人によって  
(制限される・多少制限される ・ 影響はない)
  - ③ 余暇や自分のために使う時間は本人によって  
(制限される・多少制限される ・ 影響はない)
  - ④ 近所づきあいや社会的な交流は本人によって  
(制限される・多少制限される ・ 影響はない)
- 2) 日常生活について、ご家族が以下のようなことをする時間について
  - ① 趣味やリラクスのための時間は(ある ・ あまりない ・ ない)
  - ② 社会的交流(友人と会うなど)は(ある ・ あまりない ・ ない)
- 3) 心身の健康について
  - ① 家族の身体的な健康状態は(非常に良い ・ よい ・ あまりよくない ・ わるい)
  - ② 家族の精神的な健康状態は(非常に良い ・ よい ・ あまりよくない ・ わるい)

以下の欄は、スタッフが記入して下さい

特記事項

本人・家族の生活に、ここ数ヶ月で大きな事件や変化はありましたか？  
(例：近親者の病気・死亡、出産、恋愛問題、入学・卒業、退職・転職、事件事故、借金)

あり・なし

具体的に：

・その他



## 書類記入要項

各アンケート・書類等は以下の手順でご記入ください。

### ① インテーク基礎状況表

担当スタッフが記入。

エントリー時点で当該機関とのかかわりが「新規・継続」いずれのケースかをチェック。

本人氏名についてはイニシャルとし、学籍・就労の有無、性別・年齢を記載。

家族構成については、続き柄、年齢、学籍・就労の有無、同居の有無について記載し、来談者に○。

相談状況：相談開始日、ファーストコンタクトをした人と経路を相談経路欄に記入。

現在の状況は、今現在当てはまる引きこもり状態すべてに丸をつけ、現時点で見られる問題行為を記入。

ひきこもり分類・家族拒否分類については、基礎情報票下欄を参照して記入。診断の有無、「分裂病疑い」の場合はその他に記入。街頭機関以外に利用している社会資源については資源利用に記入。

これまでの経過：不登校・就労の有無についてチェック。ひきこもり定義(自宅中心の生活で社会参加活動をしない)に当てはまるようになった時期、それ以降のひきこもり経過中に見られた問題行為を記入。問題行動は現在は見られないものも記入すること。

ひきこもり分類・家族拒否分類については引きこもり状態に名手から最も状態が悪いと思われる時期の状態について記入。

### ② 支援提供情報票

担当スタッフ記入。

エントリー時・3ヶ月・6ヶ月・9ヶ月・12ヶ月の5回。

記載日までの3ヶ月間で提供した(提供中の)支援プログラムについて、記入する。支援プログラムの分類については一覧を参考にし、プログラム分類以外の支援については備考欄に記入。複数の支援を平行して実施している場合については、それぞれのプログラムについて、対象者・継続状況を記入する。

### ③ 家族自記式アンケート

家族が記入。

エントリー時と12ヶ月の2回。本人のみのエントリーケースについては実施しない。

エントリー時に担当者から、家族自記式アンケート・記入上のお願ひ・返信用封筒を手渡し、回答と返信を求める。

\*返信用封筒：各所属機関担当者宛とする

#### ④ 家族問診票

家族が記入。

エントリー時・3ヶ月・6ヶ月・9ヶ月・12ヶ月の5回。本人のみのエントリーケースについては実施しない。

エントリー時については、同意書を得た日のうちに記入してもらう。それ以降は、来談時に手渡しし、待ち時間などに記入してもらう。

大きなライフイベントがあった場合は、担当スタッフが裏面の欄に記載。

#### ⑤ インフォームドコンセント用紙および同意書

同意書には家族（⑤-1）・本人自身（⑤-2）が記入。

家族調査の実施の場合には家族からの同意を、本人調査の実施の際には本人の同意を得る。

次に書かれている状態に、自分が当てはまっていると思いますか？○をつけてお答え下さい。

「6ヶ月以上自宅に引きこもり、学校や仕事に行かない状態が続いている」

1. 今、そのような状態である。 はい・いいえ  
2. 過去に、そのような状態があった はい・いいえ  
2. が「はい」の場合 → 何才頃ですか \_\_\_\_\_才頃

1. が「はい」の人 → 今の状態について、下の質問に進んでください。

1. が「いいえ」だった人  
2は「はい」だった。→過去の引きこもりについて、下の質問に進んでください。  
2も「いいえ」だった。→ここで終わりにしてください。

---

今、もしくは、過去の引きこもりについてお伺いします。

1. 引きこもったことについて、家族以外の方に相談をしましたか？ はい・いいえ  
「はい」の場合 → どこに相談しましたか  
a.友人 b.教師 c.医師 d.保健所 e.インターネットで f.その他 ( )

2. 引きこもるようになった、きっかけは何でしょうか。

- a. 学校でうまくいかなかった  
b. 仕事でうまくいかなかった  
c. 眠れなくなるなど、体調が悪くなった。  
d. 心の傷になるような、辛い出来事があった。  
e. その他 ( )

3. ひきこもりになってから次のようなことがありましたか？

- |                     |     |      |      |       |
|---------------------|-----|------|------|-------|
| a. 眠れない             | いつも | ほとんど | 時々   | 全くない  |
| b. 食欲がある            | いつも | ほとんど | 時々   | 全くない  |
| c. 気持のイライラ          | いつも | ほとんど | 時々   | 全くない  |
| d. 涙が出る             | いつも | ほとんど | 時々   | 全くない  |
| e. 体の調子が悪い          | いつも | ほとんど | 時々   | 全くない  |
| f. 体に痛みがある          | いつも | ほとんど | 時々   | 全くない  |
| g. 趣味をしている          | いつも | ほとんど | 時々   | 全くない  |
| h. 毎日が楽しい           | いつも | ほとんど | 時々   | 全くない  |
| i. 一年前よりも元気になっていますか | はい  | 少し元気 | 多少悪い | 悪くなった |
| j. 一年前よりも健康になっていますか | はい  | 少し健康 | 多少悪い | 悪くなった |

4. 「過去」に引きこもりがあった方についてのみ

それはどのようにして終わりましたか？

- |              |              |
|--------------|--------------|
| a. 学校に行き始めた  | b. 仕事に行き始めた  |
| c. 友人に助けもらった | d. 家族に助けもらった |
| e. 医師に相談した   | f. 保健所に相談した  |
| g. 自分の気持ちで   |              |
| h. その他 ( )   |              |

厚生科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）  
「地域精神保健活動における介入のあり方に関する研究」

平成 13 年度 総括・分担研究報告書

発行日 平成 14 年 4 月

発行者 主任研究者 伊藤順一郎

発行所 国立精神・神経センター精神保健研究所

〒272-0827 千葉県市川市国府台 1-7-3

Tel 0473-375-4758/Fax 047-375-4773